



ボタニカルニュース ～牧野公園情報～

◇もうすぐ梅雨♪

紫陽花が綺麗な時期が近づいてきました♪
牧野公園では、見ごたえある西洋紫陽花や種類豊富な山紫陽花が、園内各所で楽しめる季節です。また可憐な姿の山野草たちもたくさん咲いています。さて、梅雨の時期には雨の日が続く、家で過ごす時間も多くなるかと思えます。そんな時は、好きな花の由来や花言葉などを図鑑で調べてみると面白いかもしれません。「まちまるごと植物園」のフェイスブックページでは、見頃など様々な情報を発信していますので、ぜひ〈検索〉してみてください♪



◇6月に見頃のお花♪

フクリンササユリ(覆輪笹百合)
ユリ科ユリ属。牧野博士が佐川町産の標本に基づき命名したもの。
花：6月頃



キツリフネ(黄釣船)
ツリフネソウ科ツリフネソウ属。湿った樹林内に生える一年草。名前は華道で用いる花器の「釣舟」に由来。花：6月上旬～下旬頃



ヤマアジサイ(山紫陽花)
アジサイ科アジサイ属。花弁に見えるのはガクが変化したもの。色は白色、淡青色、淡紅色など。牧野博士命名種。花：5～6月頃



オカトラノオ(岡虎の尾)
サクラソウ科オカトラノオ属。名前は花をトラの尾に見立てたことに由来。花：6月頃



まちまるごと植物園 ～まちの植物情報～

machimarugoto syokubutsuen

◆山野草植栽会、その後の様子♪

暖かくなり、雑草も増えてきた某日、過去に開催した「博士ゆかりの山野草植栽会」の植栽地(桜座前と役場前)のお手入れを少人数で行いました。近くに来た際にはぜひ立ち寄ってみたい♪皆さんが育てている山野草たちのその後の様子はいかがですか？

桜座前



オキナグサの種が翁の白髪のようになくなって、夏秋の植物もちゃんと芽吹いていました。

役場前



約2年経ち、残念ながら消えてしまったものもあれば、自分で範囲を広げて増えているものもありました。

※毎年種まき会の次に開催している「鉢上げ会」は、今年は中止となりました。鉢上げ会に続く「植栽会」は開催できることを祈っています。

◆まちまるごと植物園

サポーター募集中！

皆さんのお庭や地域の花壇に設置できる、口ゴブレイトをお配りしています♪佐川町を植物でいっぱいにはしませんか？
お問い合わせはチーム佐川推進課まで♪

青山文庫だより

青山文庫の歴史① 佐川領の繁栄

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威をふるっており、青山文庫も感染拡大予防のため臨時休館をしております(執筆当日)。ゴールデンウィーク明けには再開館の予定ですが、先の目処が立ちにくい状況ですので、新しい展示の内容を紹介するのは控え、みなさんにぜひ知ってもらいたい青山文庫の歴史を振り返り、紹介してみたいと思います。

今までに何度か、部分的に紹介してきましたので、よくご存じの方もいらっしゃるでしょうが、ぜひお付き合いください。

そもそも、現在の佐川町の元となった「深尾領(佐川領)」は、関ヶ原の戦いの戦功で土佐一国を与えられた、初代土佐藩主・山内一豊の筆頭家老をつとめる深尾重良が与えられた領地を指す言葉で、深尾氏の領地という意味で「深尾領」とも、領主がその中心地である「佐川」を冠して「佐川様」と呼ばれた事にちなみ「佐川領」とも呼ばれています。

地図上で、佐川領を明確に示す事は今となつては困難ですが、現在の日高村の一部・佐川町・越知町・仁淀川町の一部が、その範囲です。

かつての佐川村に、領主が「御土居」と称される役場兼自宅をつくり、この御土居を中心に深尾領を運営してゆきます。

そして、御土居の周辺には深尾家の家臣達(武士)が住居し、隣接する、現在の東町・上町・西町周辺を中心としたエリアに、商家が立ち並び商人町(城下町内の商業地)が形成されてゆきました。

江戸時代を通して、広大な深尾領の中心地として発展していった佐川の城下町で、酒造業を営む「入吉屋(一時期、吉田屋)」が、商人として成長し、財を蓄え、その子孫に、後に青山文庫の母体となる川田文庫を創設した、川田豊太郎が生まれます。
青山文庫の歴史の出発点には、佐川領の繁栄が大きく影響しているのです。

(青山文庫 藤田有紀)
※現在開催している春の企画展「志士たちの遺墨」と小展示「西谷文庫の世界」は、9月6日まで期間を延長して開催する事が決まりました。

文芸

川柳

葉漬け 川柳づけの 余生術
躑躅へ 味方もしぶる 助け舟
気の利かぬ 風が雀を 煽りたて
和田 憲一

チコ叱る 「我思わず、故に我なし」

東 聖 (ペンネーム)

俳句

ゆきずりの 足とめて見る 梨の花
味元 佐知子

人ありて 桜も宴 この世かな

東 聖 (ペンネーム)

短歌

そう言うが 我の体は 我のもの
他人のデータと 比較しないで
東 聖 (ペンネーム)

川柳・俳句・短歌を広報さかわに掲載してみませんか？

※8月号への掲載を希望される方は7月1日(水)まで
投稿方法・氏名・住所・電話番号と、川柳・俳句・短歌のいずれの部門かをご記入のうえ封書やはがき、ファックスにてお送りください。応募多数の場合は抽選により掲載します。